

令和2年 救急統計

とかち広域消防事務組合

凡 例

- 1 本書は、令和2年中に発生した救急事故全般について、救急事故等報告要領に基づいて算出したものを統計資料としてまとめたものです。
- 2 数字の単位未満は四捨五入しているため、総数と内訳が一致しない場合があります。
- 3 表中で使用した符号は下記のとおりです。
「-」・・・該当数字又は集計値のないもの
「※」・・・注釈
「▲」・・・マイナス表示

目 次

1 救急出動件数及び搬送人員数	1 ページ
2 事故種別ごとの救急出動件数及び搬送人員数	2～3 ページ
3 年齢区分別の搬送人員数	4 ページ
4 傷病程度別の搬送人員数	5 ページ
5 救急出動における現場到着所要時間及び病院収容所要時間	6 ページ
6 熱中症による搬送人員数	7 ページ
別表 十勝管内消防署別救急出動件数と搬送人員	8 ページ

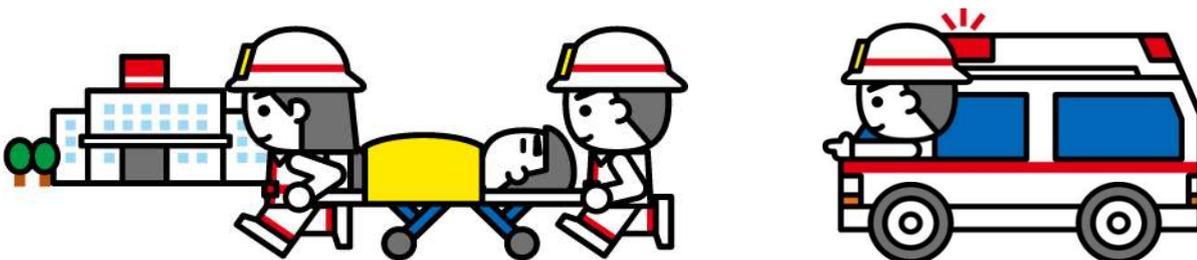
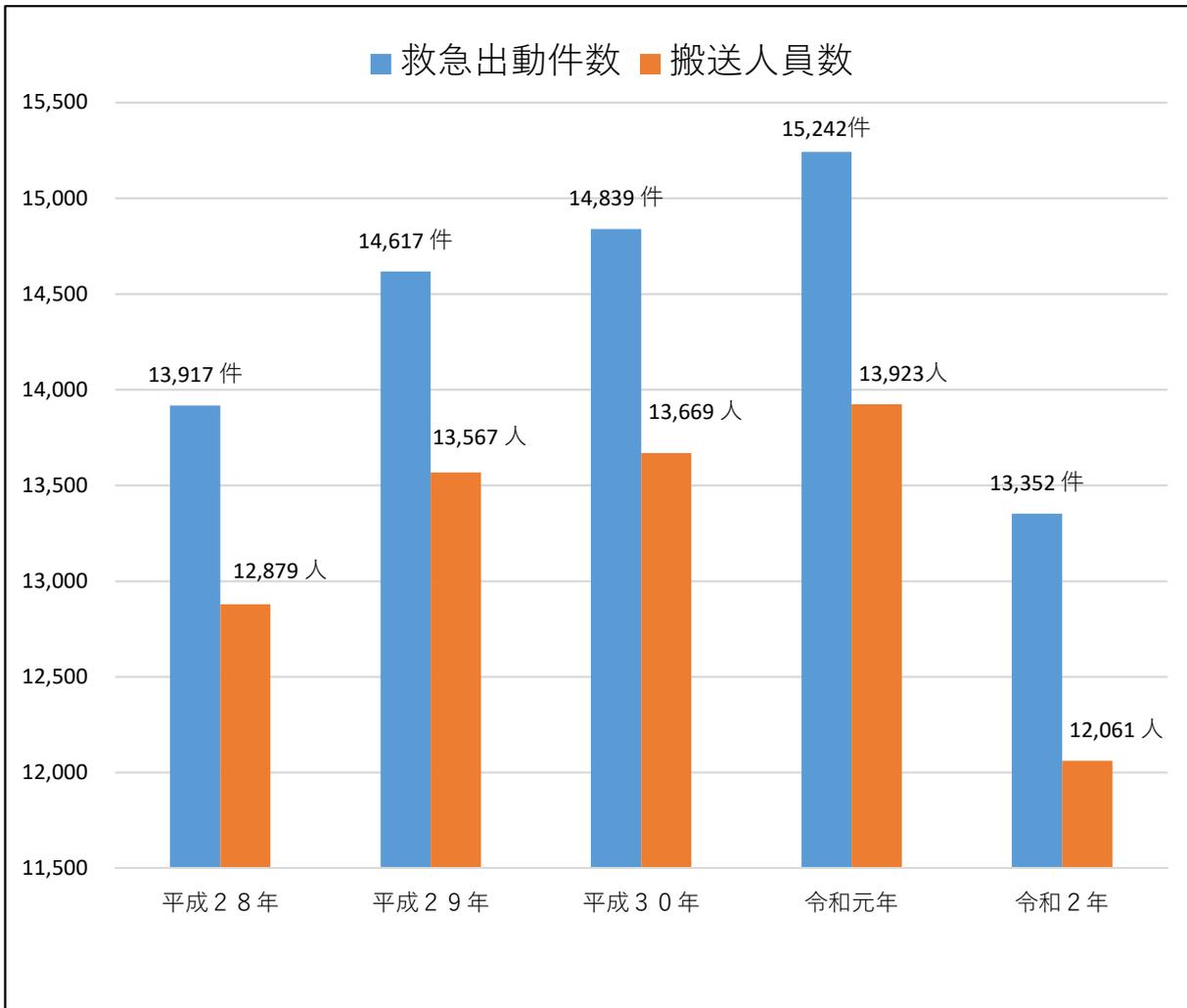
1 救急出動件数及び搬送人員数

令和2年中の救急出動件数は、13,352件（対前年比1,890件減、12.4%減）、搬送人員数は12,061人（対前年比1,862人減、13.4%減）で救急出動件数、搬送人員数ともに前年を大きく下回りました。（図1）

救急車は39.4分に1回の割合で出動し、十勝管内の住民27.6人に1人が搬送されたこととなります。

※ 令和2年国勢調査人口（確定値）による管轄人口を基準に算出した値です。

図1 救急出動件数及び搬送人員数の推移



2 事故種別ごとの救急出動件数及び搬送人員数

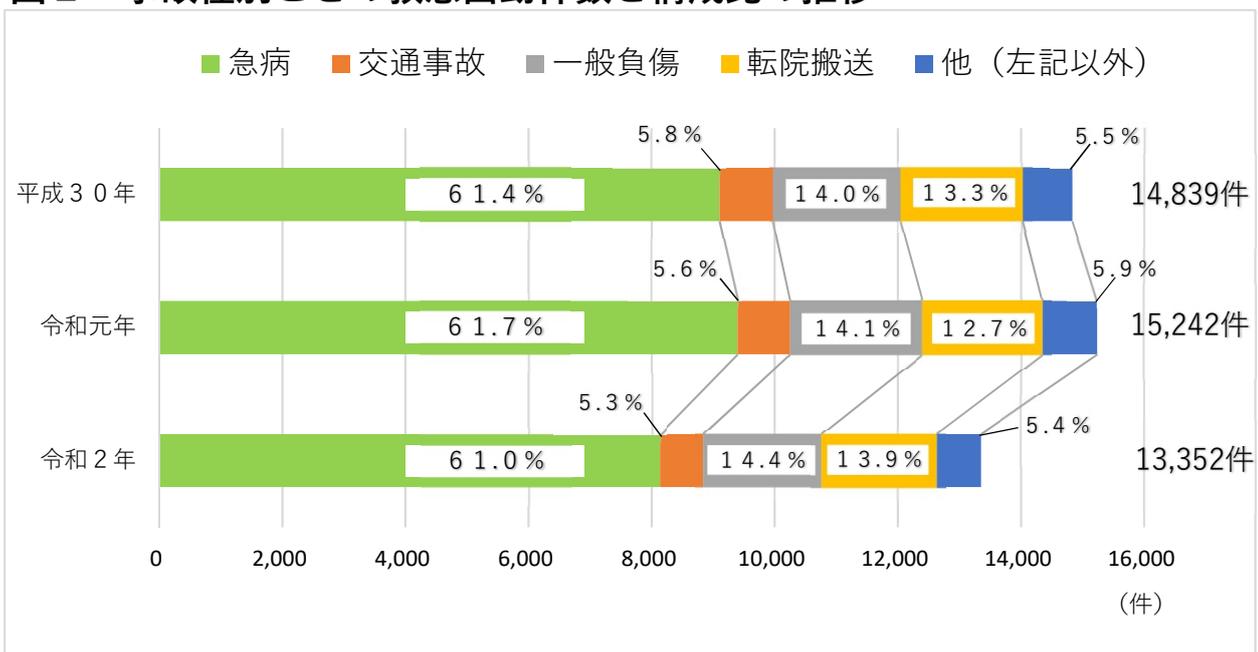
令和2年中の救急出動件数の内訳を事故種別ごとにみると、急病が8,139件（61.0%）、一般負傷が1,925件（14.4%）、交通事故710件（5.3%）などとなっています。（表1参照）

事故種別ごとの救急出動件数の推移をみると、急病、一般負傷、交通事故など、ほとんどの種別で減少しています。（図2参照）

表1 事故種別ごとの救急出動件数対前年比

事故種別	令和2年中		令和元年中		対前年比		
	出動件数	構成比 (%)	出動件数	構成比 (%)	増減数	増減率 (%)	
火災	51	0.4	87	0.6	▲ 36	▲ 41.4	
自然災害	0	0.0	1	0.0	▲ 1	▲ 100.0	
水難	9	0.1	6	0.0	3	50.0	
交通事故	710	5.3	854	5.6	▲ 144	▲ 16.9	
労働災害	176	1.3	209	1.4	▲ 33	▲ 15.8	
運動競技	66	0.5	131	0.9	▲ 65	▲ 49.6	
一般負傷	1,925	14.4	2,154	14.1	▲ 229	▲ 10.6	
加害	35	0.3	39	0.3	▲ 4	▲ 10.3	
自損行為	158	1.2	165	1.1	▲ 7	▲ 4.2	
急病	8,139	61.0	9,399	61.7	▲ 1,260	▲ 13.4	
その他	転院搬送	1,853	13.9	1,935	12.7	▲ 82	▲ 4.2
	医師搬送	1	0.0	0	0.0	1	-
	資機材等搬送	0	0.0	0	0.0	0	-
	その他	229	1.7	262	1.7	▲ 33	▲ 12.6
合計	13,352	100.0	15,242	100.0	▲ 1,890	▲ 12.4	

図2 事故種別ごとの救急出動件数と構成比の推移



※ 端数処理（四捨五入）のため、割合の合計は100%にならない場合があります。

令和2年中の搬送人員数の内訳を事故種別ごとにみると、急病が7,376人（61.2%）、一般負傷が1,772人（14.7%）、転院搬送が1,848人（15.3%）などとなっています。（表2参照）

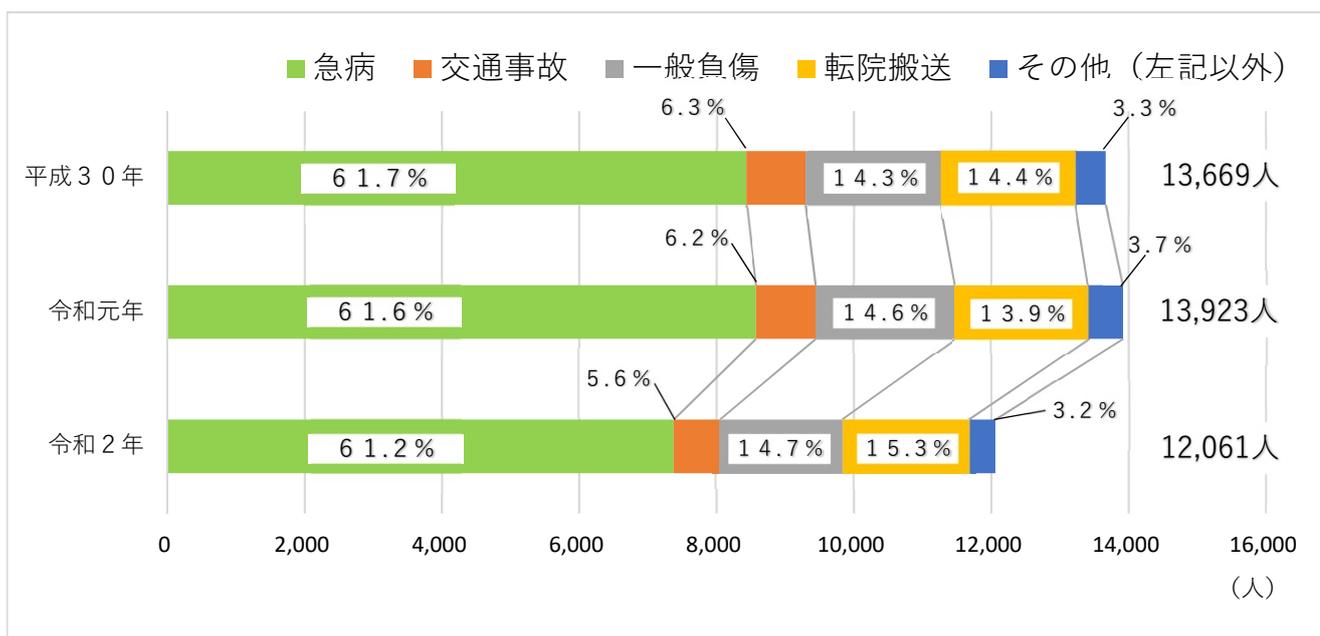
令和元年中と比較し、全体で1,862人減少しており、事故種別ごとの搬送人数の推移をみると、救急出動件数と同様、急病、一般負傷、交通事故など、ほとんどの種別で減少しています。

（図3参照）

表2 事故種別ごとの搬送人員数対前年比

事故種別	令和2年中		令和元年中		対前年比		
	搬送人員数	構成比（%）	搬送人員数	構成比（%）	増減数	増減率（%）	
火災	21	0.2	26	0.2	▲5	▲19.2	
自然災害	0	0.0	1	0.0	▲1	▲100.0	
水難	5	0.0	2	0.0	3	150.0	
交通事故	675	5.6	869	6.2	▲194	▲22.3	
労働災害	172	1.4	202	1.5	▲30	▲14.9	
運動競技	67	0.6	127	0.9	▲60	▲47.2	
一般負傷	1,772	14.7	2,028	14.6	▲256	▲12.6	
加害	30	0.2	32	0.2	▲2	▲6.3	
自損行為	88	0.7	113	0.8	▲25	▲22.1	
急病	7,376	61.2	8,574	61.6	▲1,198	▲14.0	
その他	転院搬送	1,848	15.3	1,935	13.9	▲87	▲4.5
	医師搬送	0	0.0	0	0.0	0	-
	資機材等搬送	0	0.0	0	0.0	0	-
	その他	7	0.1	14	0.1	▲7	▲50.0
合計	12,061	100.0	13,923	100.0	▲1,862	▲13.4	

図3 事故種別ごとの搬送人員数と構成比の推移



※ 端数処理（四捨五入）のため、割合の合計は100%にならない場合があります。

3 年齢区分別の搬送人員数

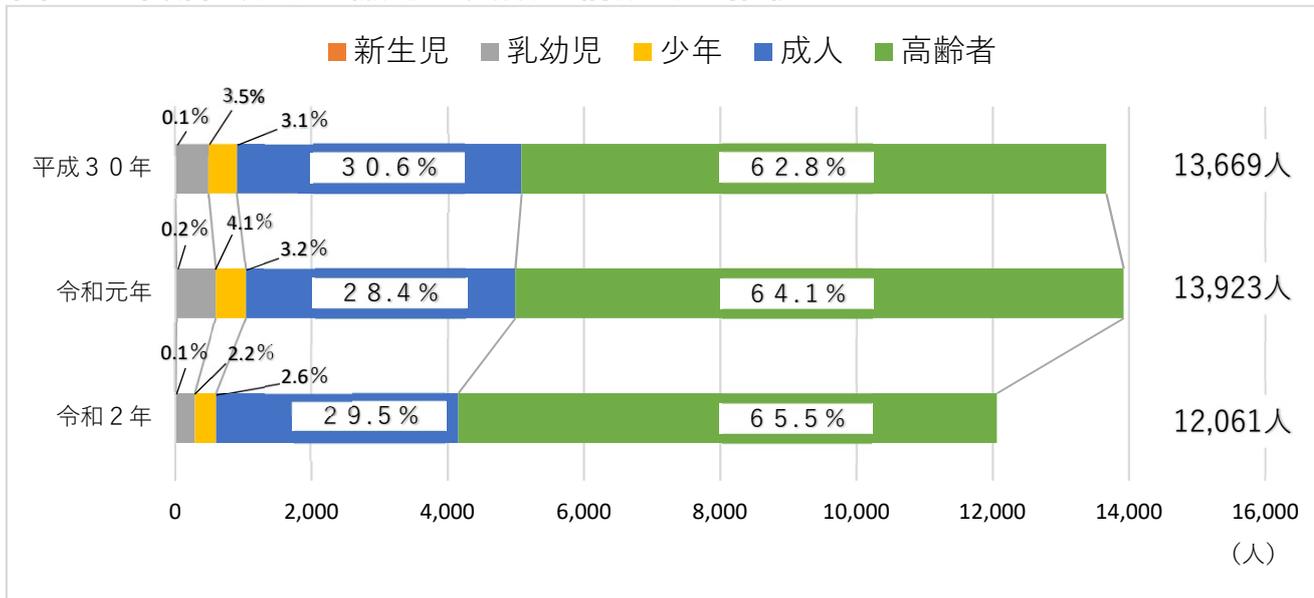
令和2年中の搬送人員数の内訳を年齢区分別にみると、高齢者が7,904人（65.5%）、成人が3,556人（29.5%）、少年が312人（2.6%）、乳幼児が271人（2.2%）などとなっています。（表3参照）

年齢区分別の搬送人員数の推移をみると、新生児、乳幼児、少年の搬送割合が減少している一方で、成人と高齢者の搬送割合は増加しています。（図4参照）

表3 年齢区分別の搬送人員数対前年比

	令和2年中		令和元年中		対前年比	
	搬送人員数	構成比 (%)	搬送人員数	構成比 (%)	増減数	増減率 (%)
新生児	18	0.1	23	0.2	▲ 5	▲ 21.7
乳幼児	271	2.2	572	4.1	▲ 301	▲ 52.6
少年	312	2.6	445	3.2	▲ 133	▲ 29.9
成人	3,556	29.5	3,952	28.4	▲ 396	▲ 10.0
高齢者	7,904	65.5	8,931	64.1	▲ 1,027	▲ 11.5
合計	12,061	100.0	13,923	100.0	▲ 1,862	▲ 13.4

図4 年齢区分別の搬送人員数と構成比の推移



※ 端数処理（四捨五入）のため、割合の合計は100%にならない場合があります。

※ 年齢区分の定義

- 新生児 : 生後28日未満
- 乳幼児 : 生後28日以上満7歳未満
- 少年 : 満7歳以上満18歳未満
- 成人 : 満18歳以上満65歳未満
- 高齢者 : 満65歳以上

4 傷病程度別の搬送人員数

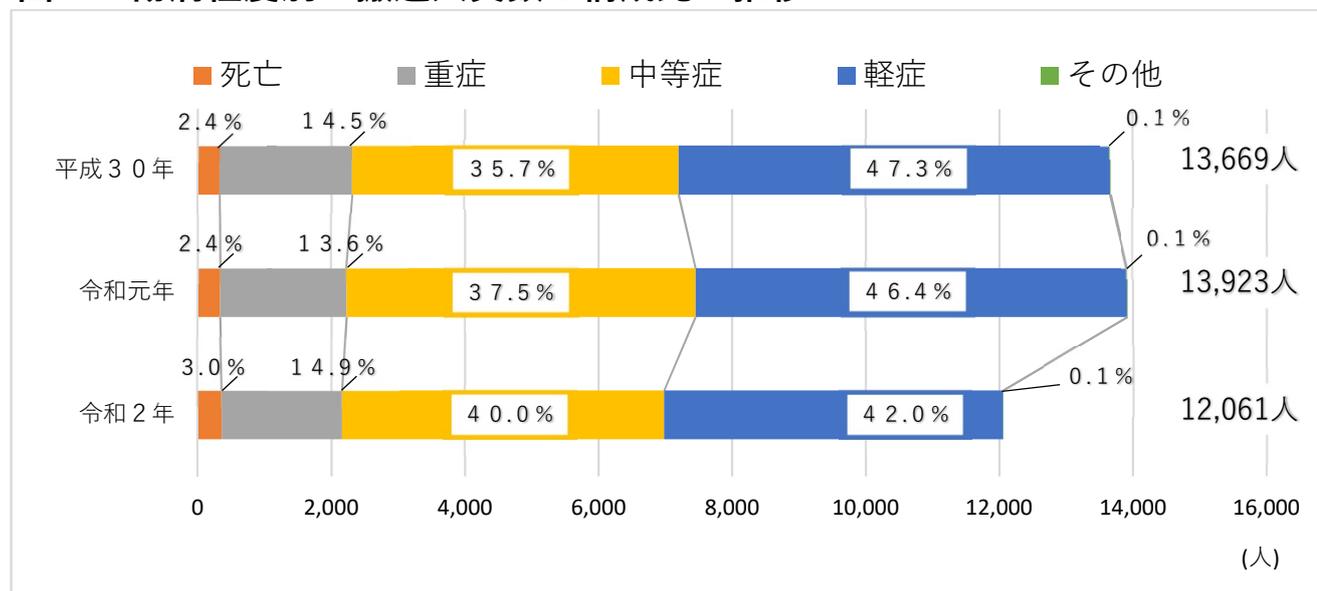
令和2年中の搬送人員数の内訳を傷病程度別にみると、軽症（外来診療）が5,075人（42.0%）、中等症（入院診療）が4,821人（40.0%）、重症（長期入院）が1,800人（14.9%）となっています。（表4参照）

傷病程度別の搬送人員数の推移をみると、総搬送人員数に占める軽症の傷病者の搬送割合は減少し、中等症以上は増加傾向にあります。（図5参照）

表4 傷病程度別の搬送人員数対前年比

	令和2年中		令和元年中		対前年比	
	搬送人員数	構成比 (%)	搬送人員数	構成比 (%)	増減数	増減率 (%)
死亡	361	3.0	334	2.4	27	8.1
重症（長期入院）	1,800	14.9	1,896	13.6	▲96	▲5.1
中等症（入院診療）	4,821	40.0	5,223	37.5	▲402	▲7.7
軽症（外来診療）	5,075	42.0	6,460	46.4	▲1,385	▲21.4
その他	4	0.1	10	0.1	▲6	▲60.0
合計	12,061	100.0	13,923	100.0	▲1,862	▲13.4

図5 傷病程度別の搬送人員数と構成比の推移



※ 端数処理（四捨五入）のため、割合の合計は100%にならない場合があります。

※ 傷病程度の定義

- 死亡：初診時において死亡が確認された方
- 重症（長期入院）：傷病程度が3週間以上の入院加療を必要とする方
- 中等症（入院診療）：傷病程度が重症または軽症以外の方
- 軽症（外来診療）：傷病程度が入院加療を必要としない方
- その他：医師の診断がないもの及び傷病程度が判明しないもの、もしくはその他の場所に搬送した方

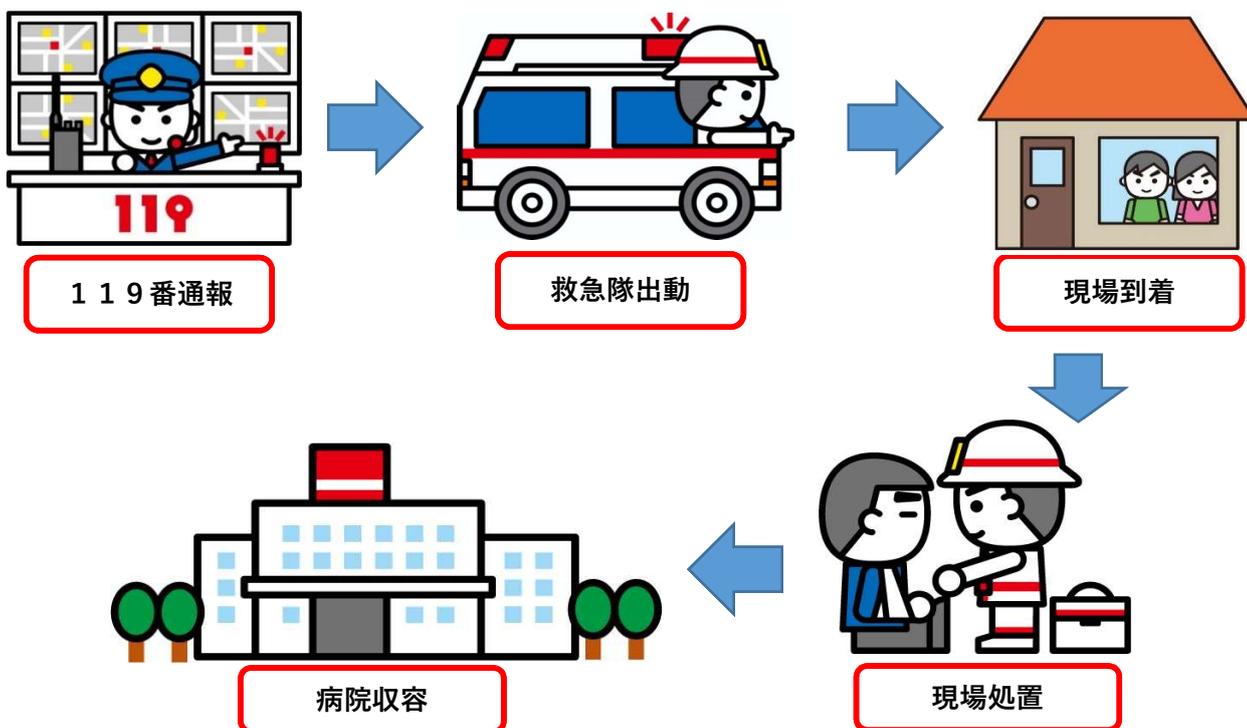
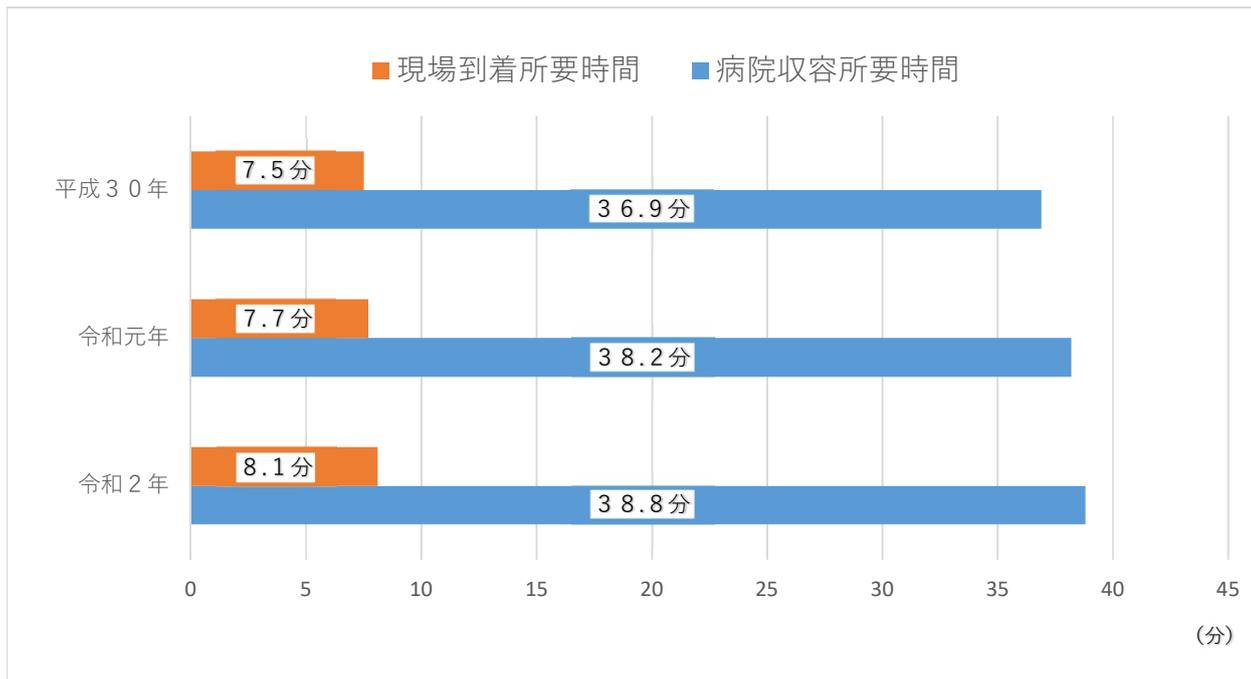
※ 傷病程度は入院加療の必要程度を基準に区分しているため、軽症の中には早期に病院での治療が必要だった者や通院による治療が必要だった者も含まれています。

5 救急出動における現場到着所要時間及び病院収容所要時間

令和2年中の現場到着所要時間（119番通報を受けてから現場に到着するまでに要した時間）は、十勝平均で8.1分となっています。（図6）

また、病院収容所要時間（119番通報を受けてから病院に収容するまでに要した時間）は、十勝平均で38.8分となっています。（図6）

図6 現場到着所要時間及び病院収容所要時間の推移



6 熱中症による搬送人員数

令和2年6月～9月の熱中症による搬送人員のうち、年齢別にみると、高齢者が54人（54.0%）、成人が36人（36.0%）、小年が9人（9.0%）、乳幼児が1人（1.0%）となっています。

傷病程度別にみると、死亡が1人（1.0%）、重症（長期入院）が4人（4.0%）、中等症（入院診療）が23人（23.0%）、軽症（外来診療）が72人（72.0%）となっています。

男女別にみると、男性56人（56.0%）、女性44人（44.0%）となっています。

表5 熱中症による搬送状況

		令和2年中の搬送人員						令和元年中の搬送人員						
		6月	7月	8月	9月	合計	構成比 (%)	5月	6月	7月	8月	9月	合計	構成比 (%)
年齢区分	新生児	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.0
	乳幼児	0	0	1	0	1	1.0	0	0	1	1	0	2	1.2
	少年	1	3	5	0	9	9.0	3	3	5	6	1	18	10.5
	成人	2	5	27	2	36	36.0	10	0	17	23	4	54	31.4
	高齢者	12	9	28	5	54	54.0	19	6	21	44	8	98	57.0
傷病程度	死亡	0	1	0	0	1	1.0	0	0	0	2	0	2	1.2
	重症	1	0	3	0	4	4.0	2	0	5	8	1	16	9.3
	中等症	2	4	15	2	23	23.0	12	3	7	20	1	43	25.0
	軽症	12	12	43	5	72	72.0	18	6	32	44	11	111	64.5
	その他	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.0
性別	男性	9	9	33	5	56	56.0	18	3	22	37	9	89	51.7
	女性	6	8	28	2	44	44.0	14	6	22	37	4	83	48.3
搬送人員		15	17	61	7	100	100.0	32	9	44	74	13	172	100.0

※ 端数処理（四捨五入）のため、割合の合計は100%にならない場合があります。

※ 年齢区分及び傷病程度は表3及び表4の注釈参照

※ 令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により調査開始が6月1日からとなります。



別表 十勝管内消防署別救急出動件数と搬送人員

	救急出動件数				搬送人員			
	令和2年	令和元年	増減	増減率	令和2年	令和元年	増減	増減率
帯広消防署	6,934	7,801	▲ 867	▲ 11.1	5,949	6,805	▲ 856	▲ 12.6
音更消防署	1,390	1,597	▲ 207	▲ 13.0	1,302	1,495	▲ 193	▲ 12.9
士幌消防署	235	298	▲ 63	▲ 21.1	237	283	▲ 46	▲ 16.3
上士幌消防署	237	259	▲ 22	▲ 8.5	226	248	▲ 22	▲ 8.9
鹿追消防署	165	217	▲ 52	▲ 24.0	160	204	▲ 44	▲ 21.6
新得消防署	207	253	▲ 46	▲ 18.2	202	249	▲ 47	▲ 18.9
清水消防署	296	361	▲ 65	▲ 18.0	287	342	▲ 55	▲ 16.1
芽室消防署	673	722	▲ 49	▲ 6.8	642	737	▲ 95	▲ 12.9
中札内消防署	149	163	▲ 14	▲ 8.6	141	153	▲ 12	▲ 7.8
更別消防署	133	125	8	6.4	127	126	1	0.8
大樹消防署	213	258	▲ 45	▲ 17.4	202	244	▲ 42	▲ 17.2
広尾消防署	288	344	▲ 56	▲ 16.3	274	317	▲ 43	▲ 13.6
幕別消防署	995	1,232	▲ 237	▲ 19.2	943	1,177	▲ 234	▲ 19.9
池田消防署	326	353	▲ 27	▲ 7.6	312	335	▲ 23	▲ 6.9
豊頃消防署	121	137	▲ 16	▲ 11.7	101	128	▲ 27	▲ 21.1
本別消防署	395	416	▲ 21	▲ 5.0	382	403	▲ 21	▲ 5.2
足寄消防署	338	402	▲ 64	▲ 15.9	329	389	▲ 60	▲ 15.4
陸別消防署	114	129	▲ 15	▲ 11.6	110	125	▲ 15	▲ 12.0
浦幌消防署	143	175	▲ 32	▲ 18.3	135	163	▲ 28	▲ 17.2
十勝総数	13,352	15,242	▲ 1,890	▲ 12.4	12,061	13,923	▲ 1,862	▲ 13.4

作成担当

とかち広域消防局救急企画課

令和3年12月作成